

極東ロシア空軍戦闘機の配備傾向

漢和防務評論 20140324（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

ウクライナ情勢を巡って西側とロシアの駆け引きが続いていますが、ロシアの他国干渉のやり方を見ていると、かつてのソ連のやり方そのものですね。しかし世界の状況は当時と全く異なっていますので、横車を押すたびロシアが不利になるのは目に見えています。中国は国運を賭してまでロシアに味方する理由はありませんので、傍観者の立場をとるでしょう。漢和防務評論に極東地域でのロシア空軍戦闘機の配備傾向に関する記事がありましたので紹介します。冷戦終結後、ロシアの戦略環境が変化したので、新鋭機は極東方面から優先的に配備するようになると記事は述べています。主要対象国は中国です。

KDR バンコク平可夫特電：

ロシア空軍 SU-35 の最初の配備基地は、本誌の予想した通り、中露国境にある”コムソモリスク・ナ・アムール(共産主義青年城)”空軍基地であった。同地には、SU-35/SU-33 及び SU-30MKK の生産工場がある。冷戦終結後、ロシアの戦略環境が変化し、ロシア空軍の新型戦闘機の多くは最初に極東地区に配備される可能性が高いと KDR は予想していた。新鋭機を最初に極東地区に配備する目的は勃興する中国軍に対抗するためであり、同時に日米に対抗するためでもある。ロシア空軍及びロシア軍事力全体の配備の重点は、伝統的に欧州にあった。新鋭機 SU-35 が最初に極東に配備された理由は、ソ連崩壊後、ロシアと NATO の間に白ロシア及びウクライナという航空戦力配備上の緩衝地帯が出現したためロシアの空軍戦略が変化したからである。これは、ロシアが近年来、白ロシア空軍及び防空兵力を積極的に強化している理由でもある。ロシアは、S-300 型地对空ミサイル、先進的な YAK-130 型練習機を率先して白ロシアに供給し、また白ロシアに対しインドで退役した 18 機の SU-30K を推奨した。一方ロシア空軍は、極東において日増しに強化される中国空軍及び米空軍と対峙している。もし KDR の判断が正しければ、今後さらに多くの改良型先進式作戦機が極東のロシア空軍基地に配備されるであろう。ロシアは SU-35 を”コムソモリスク・ナ・アムール”に配備したが、今後 SU-35 を中国向けに輸出した場合、問題はないのか。おそらく中国向けの SU-35 はロシア空軍が使用する SU-35 とは性能が大きく異なるはずだ。そうでなければ双方の SU-35 が空中で遭遇した場合、ロシアは技術の優位が保てない。

ロシア空軍司令官ゼーリン大將は、2009 年ソウルで本誌記者の取材を受けた際に、“ロシアは SU-27 を 2 個連隊分だけ改良したが、今後は航空戦力の中心として新型作戦機を導入する”と述べた。

このように 2014 年には、極東の沿海軍区におけるロシア空軍戦力は、SU-27SM ×48 機、SU-35×24 機と、72 機の先進型戦闘機が就役する。ロシアは、SU-35 ×1 機の総合的な能力は、SU-27SK/J-11 の 3 乃至 4 機分に相当すると考えている。ロシア空軍は、2013 年、コムソモリスク・ナ・アムーレで生産された 12 機の SU-35S を受領した。ロシア空軍は、全部で 48 機の SU-35 を購入しており、2015 年には全機数を領収する予定である。第 6987 航空基地は、コムソモリスク・ナ・アムーレにあり、最初の SU-27SM 連隊が配備されている。ここは、第 3 防空司令部第 303 混成師団第 23 戦闘航空兵団が所在する。

2013 年、保有する 10 機の SU-35S に対してロシアの国家飛行試験センターは領収のための試験飛行を行った。これらの機体は先期導入型に属する。導入の進行状況を見ると、これらの機体は 2012 年末に空軍に引き渡された機体であるようだ。試験飛行に 1 年かかり、一部の（大きくはない）技術的問題を解決した。このように 2014 年には 22 機の SU-35 が空軍に渡され、全てコムソモリスク・ナ・アムーレの基地に配備される。2013 年 7 月の衛星写真では、同基地には全部で 28 機の SU-27SM/SU-35 型戦闘機が見られた。

2 個連隊分しかない改良された SU-27SM も極東に配備されている。このことからロシアの中国に対する警戒心の度合いが分かる。驚くのは、コムソモリスク・ナ・アムーレの空軍基地の施設である。28 機のスホーイ戦闘機は全て野外係留であり、堅固な格納庫などはない。滑走路もソ連時代のもので修理されていないようだ。一方の中国空軍は、新型機の基地はどの基地でも飛行場が最初に整備される。

高性能の SU-35 は、整備に便利のように生産工場の基地に配備された。

しかしコムソモリスク・ナ・アムーレの厳寒さは有名で、なぜ新たなエプロンなどを建設しないのか疑問である。

ロシア空軍の編制は、“基地化”された。すなわち 1 個航空基地には、2 つ以上の機種を有する機種混合の部隊が配備される。この点は中国空軍とは異なる。中国空軍は、1 個航空基地に 1 機種のみ配備する。

ロシア空軍のこの改革の目的は、多様化された作戦任務に対し航空基地の履行能力を高めるためである。したがってコムソモリスク・ナ・アムーレに SU-35 が配備されても、元々所在する SU-27SM の 1 個連隊はそのまま留まる可能性が極めて高い。ロシアの 1 個連隊の戦闘機の機数は 24 機であり、中国の J-11 の部隊と同じである。中国空軍のお手本は元々ロシア軍なので不思議ではない。

第 6989 基地はウラジオストクにあり、SU-27SM を装備する 2 番目の基地である。24 機の SU-27SM がエプロンに並んでいる。KDR は、同基地に少なくとも 1 個連隊の MIG-31 型長距離爆撃機があるのを写真（衛星）判読した。このことは、第 8986 基地が建設された後、混合編制の思想に基づいて 2 種類の戦闘機が配備されるようになったことを示している。2013 年 12 月 16 日、1 機の MIG-31 が同基地付近で墜落した。ロシア空軍はこのため MIG-31 全機を飛行停止にした。現在は飛行が再開されている。この基地には多くの強化型格納庫がある。ロシア空軍は、現在 122 機の MIG-31 を保有している。計画では少なくとも 60 機を MIG-31BM 型に改装し 2028 年まで使うつもりのようなのだ。改良後の MIG-31BM は、新型デジタル・データリンク、新型マルチモード・ディスプレイ及びミッションコンピューターが搭載される。MIG-31BM は、R-77、R-37M 型長距離空対空ミサイル、KH シリーズ対レーダーミサイルを使用することが出来る。2012 年に、ロシア空軍は、10 機の MIG-31BM を取得した。ロシアのメディアは、中央軍区空軍が 10 機の MIG-31BM を取得したと報じた。このことは、これらの機体が東方軍区の MIG-31 部隊ではないことを意味する。もし本誌の判断が正しければ、今後ウラジオストクの MIG-31 は優先して改装されるであろう。

ロシア軍の SU-27SM 改良型戦闘機は、中国空軍の J-11B に相当する。依然として航空優勢獲得のための戦闘機であり、武器射撃用ソフトウェア、ミッションコンピューターを改良し多様化が図られ、R-77 型先進式中距離空対空ミサイルを搭載できる。一説によると、ミッションコンピューターの容量が大きく、さらに多くの空対地用武器、空対艦用武器のためのソフトを導入することが出来るといわれている。一旦需要があれば、SU-27SM は、多用途戦闘機として運用することが出来る。SU-27SM は最近生産された戦闘機として配備されているが、中味は単なる SU-27S の中期延命型であるようだ。

KDR が特に関心を持っているのは、今後の SU-30SM の配備場所である。この種の先進型多用途戦闘機はロシア空軍現代化計画の目玉であり、SU-35 に次いで、SU-30SM は今後取得する主要機種の中で最も数の多い機種となろう。すなわちロシア空軍版の SU-30MKI（インドに輸出された機種）であり、ロシア空軍は、全部で 30+30 機の SU-30SM をオーダーしている。

ロシア空軍の SU-30SM の役割は、当然中国空軍の J-16 に相当する。J-16 のコピー元は SU-30MKK(2) であり、すなわち SU-30SM/MKI の簡易版である。SU-30SM は、相当先進的な BARS パッシブ・フェーズド・アレイ・レーダー及び AL-31FP 型 TVC（スラストベクター）エンジンを搭載し、総合能力は少なくとも J-16 の 2 倍以上である。

SU-30SM は、ロシアで生産される全ての先進式空対地、空対艦、空対空ミサイ

ルを搭載することが出来る。

同様に KDR の予想した通り、最初の SU-30SM は、シベリアに配備された。最初の SU-30SM 型戦闘機 30 機の契約は 2012 年に締結された。2013 年、ロシア空軍は 10 機の SU-30SM を領収した。2014 年には 10 機領収する予定であり、最初の SU-30SM 連隊はバイカル地方チタの DOMNA 空軍基地に配備される。この基地は番号が 6982 の基地に属し、第二防空軍司令部が統括する。

チタの DOMNA 基地は極めて大きな基地で、元々 MIG-25 が配備され強化型格納庫が建設されている。基地は、黒龍江西部 450 KM の位置にあり、冷戦時代ここに SU-25 を配備した意図は、対中国作戦が開始された場合、SU-25 を黒龍江西部の戦術作戦機として使用させることにあった。

これらのことから、中露国境の東部、西部、北部には、それぞれウラジオストクの SU-27SM の 1 個連隊、コムソモリスク・ナ・アムールの SU-27SM 及び SU-35N 各 1 個連隊、DOMNA の SU-30SM の 1 個連隊が配備され、中国を包囲していることが分かる。戦闘機の技術及び性能から見ると、上述の 100 機の先進式 SU-35/SU-30SM/SU-27SM は、最近換装された中国空軍の J-11/J-15 に対抗するには十分な性能である。

ロシアが SU-25 を SU-30SM に換装したことから空軍建設の意図が明らかになった。すなわち、攻撃任務一本の攻撃機部隊は、今後多用途任務を引き受ける SU-30SM 型戦闘機部隊に取って代わると言うことだ。この点は、中国空軍が Q-5 型攻撃機の任務を JH-7A 型戦闘爆撃機に引き継がせたこととは性質が異なる。

以上